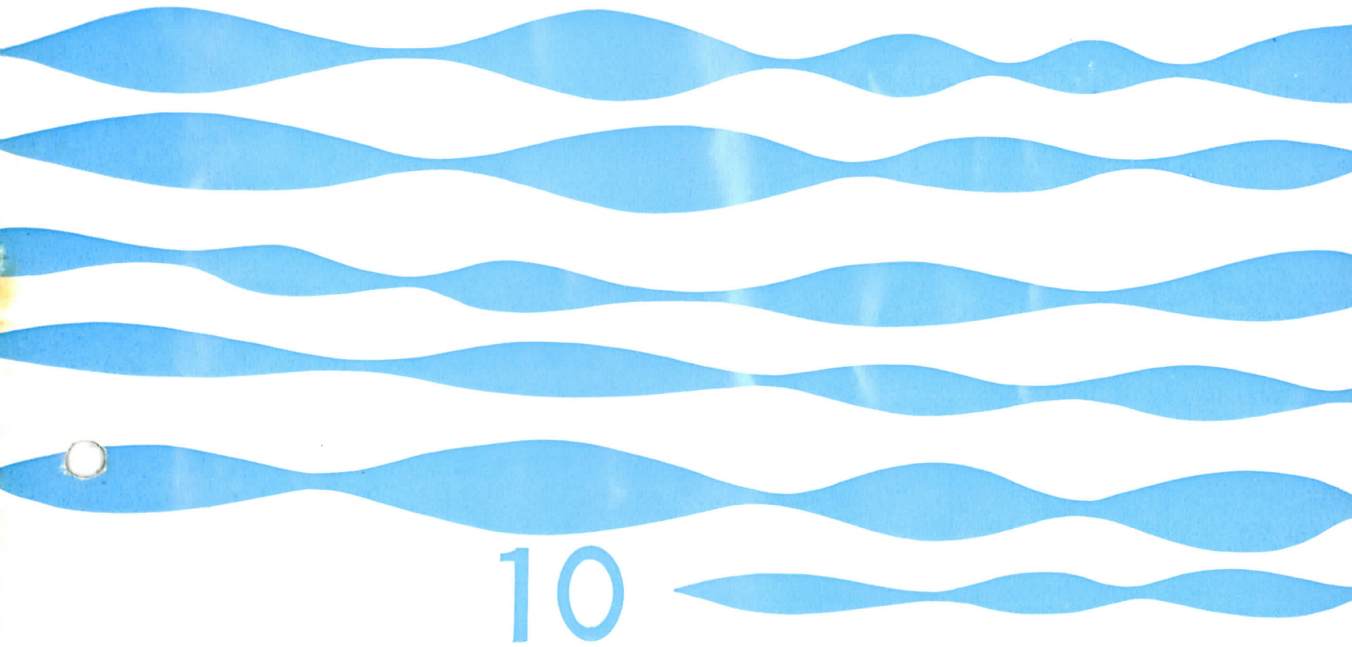
全日本カッター競技大会



10

日　時　5/15（日）9：00am～4：00pm
場　所　横須賀市・記念艦三笠　沖
主　催　全日本カッター連盟
後　援　日本放送協会
　　デイリースポーツ新聞社

第10回全日本カッター競技大会

主　催　全日本カッター連盟

主　管　防衛大学校

後　援　日本放送協会
ディリースポーツ新聞社

協　賛

日本鋼管	栗田工業
石川島播磨重工	日本無線
日立造船	日本光機工業
三菱重工	丸大工業
浦賀重工	小松産業
トーアヨット	富士産業
相模造船	東邦商事
花崎造船	山十商事
高知屋造船	東洋ランドリー
日洋物産	松坂商店
タイホウ工業	（順不同）

日　時　昭和41年5月15日（日曜日）
午前9時から午後4時まで

会　場　競技場　横須賀市・記念艦三笠　沖
開会式閉会式　三笠公園広場
（雨天の場合　記念艦三笠内講堂）

第10回全日本カッター競技大会を迎えて

防衛大学校長　大　森　寛

新緑薫る５月、由緒ある記念艦三笠沖において全国の海洋にゆかりのある各大学の参加を得て第10回全日本カッター競技大会を開催するにいたりましたことは、誠に喜びに堪えません。

我が国は四面海に囲まれた海国であり、我が国の歴史、伝統は海と共に築かれ、培われてまいったのであります。

今あらためてここに海国日本の伝統を受け継ぎ、またよりよきものとして将来に引き継ぐ、一結節をになう我々の重大な責任を感ずるのであります。

本日行なわれる、全日本カッター連盟加入校の若人が精一杯の心技を競うカッターとう漕の競技会もこの伝統の中に生きているものであります。

この大会が職域は異なりますが、将来海洋に生きるという共通の場を持っている皆さんたちの、よき心のつながりの場となり今後のより一層の理解と親善と修練のための場となって発展して行くことを切望いたします。

終りに臨み、本大会を開催するにあたり、種々御援助、御配慮賜わりました各位に対し深甚なる謝意を表するものであります。

大　会　役　員

会　長	防衛大学校校長	大森　寛
副会長	防衛大学校幹事	久保田　茂
役　員	海技大学校	明渡　範次
	海上保安大学校	八重樫　勉
	鹿児島大学	肥後　伸夫
	神戸商船大学	杉浦　昭典
	水産大学校	橋本　市雄
	東京商船大学	中島　保司
	東京水産大学	宮崎　芳夫
	長崎大学	麻生　幸則
	日本大学	添田　秀男
	三重県立大学	細川　鉄雄
	防衛大学校	山谷　雅宏

大　会　委　員

委員長	牧野　滋次	警戒保安	竹村　勉
委員長付	須藤　肇		東　信次
企　画	重田　勲	審　判	寺島　広康
	外山　祐一郎		栄井　道雄
	花井　正彦	舟　艇	橋本　衛
庶　務	保田　貢		土山　幸夫
	松山　省二		河本　洋一郎
	岡本　智博	車　輌	内田　尚
会　場	斎藤　孝		荻野　勝利
	伊藤　金二	救　護	長岡　怜次郎
	福地　武		工藤　慎一

出 漕 ク ル ー

海 技 大 学 校

（註） ◎キャプテン　○マネージャー

		氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校 （県）
顧 問		明 渡 範 次				
艇指揮		吉 田 堯	E・2	165	63	弓 削 商 船 高（岡 山）
艇 長		瀬戸口 尚 之	N・2	163	58	浜 田 水 産 高（島 根）
1		湯 口 真	E・2	167	60	竜 野 高（兵 庫）
2	◎	田 中 益 雄	E・2	167	70	富 山 商 船 高（長 野）
3		佐々木 範 長	E・2	166	66	大 島 商 船 高（大 分）
4		金 子 祥 二	N・2	176	68	安 房 水 産 高（東 京）
5		小 椋 寛 則	N・2	163	58	山 田 高（福 岡）
6		山 下 昇 一	E・1	173	63	栗 島 海 員 学 校（香 川）
7		池 田 丈 夫	N・1	170	60	広 島 商 船 高（大 阪）
8		佐 野 満	N・1	165	60	安 房 水 産 高（千 葉）
9		寺 本 正 次	甲一N	170	60	浜 田 水 産 高（島 根）
10		河 本 友 邦	甲一E	165	67	浜 田 水 産 高（島 根）
11		竹 本 健 一	甲二E	172	70	山 口 水 産 高（山 口）
12		栗 栖 勝	甲二E	173	63	浜 田 水 産 高（島 根）
補		森 本 峰 松	甲一N	168	63	三 谷 水 産 高（愛 知）
〃		吉 富 利 治	甲二N	170	67	山 口 水 産 高（山 口）

海 上 保 安 大 学 校

		氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校 （県）
顧 問		八重樫 勉				
艇指揮	◎	小 林 建 夫	N・4			墨 田 川 高（東 京）
艇 長		児 林 秀 夫	N・3	169	57	豊 浦 高（山 口）
1		岩 瀬 操	2	163	60	足 立 高（東 京）
2		山 田 功 男	2	165	60	明 和 高（愛 知）
3		川 原 忠 彦	N・4	167	63	出 水 高（鹿児島）
4		亀 井 豊	2	178	72	中 村 高（愛 知）
5		北 風 紘	2	172	66	御 影 高（兵 庫）
6		池 田 利 武	W・4	171	69	隠 岐 高（島 根）
7		浜 本 武 男	2	175	72	大 崎 高（広 島）
8		髙 橋 勝	2	178	72	木 更 津 高（千 葉）
9		吉 岡 実	2	175	68	隠 岐 高（島 根）
10		高 坂 一 憲	2	168	68	明 正 高（東 京）
11		佐 藤 義 人	N・3	164	57	磐 城 高（福 島）
12		佐々木 邦 昭	2	169	58	札 幌 東 高（北海道）
補		竹 本 憲 二	2	168	60	観 音 高（広 島）
〃		横 山 鉄 男	2	173	65	須 崎 高（高 知）
〃	○	笠 島 晃 治	E・4			鯖 江 高（福 井）

出 漕 ク ル ー

鹿 児 島 大 学

		氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校 （県）
顧 問		肥 後 伸 夫				
艇指揮		佐 藤 宏 信	漁・3	170	60	大 分 舞 鶴 高（大 分）
艇 長		大 渡 昇	経・2	164	55	武 雄 高（佐 賀）
1		合 志 昭	漁・3	166	60	大 津 高（熊 本）
2		高 橋 俊 三	製・3	169	57	府 中 高（広 島）
3		関 根 正 雄	漁・3	170	63	氏 家 高（栃 木）
4		村 上 克 己	漁・2	165	63	京 都 高（福 岡）
5		佐 多 逸 朗	漁・2	174	75	熊本商大附高（熊 本）
6		中 山 政 隆	漁・2	176	74	熊 本 高（熊 本）
7		柿 本 尚 敏	漁・3	165	62	根 室 高（北海道）
8		上 山 健 一	漁・3	170	64	甲 南 高（鹿児島）
9	◎	後 藤 真 宏	漁・3	170	65	大分上野丘高（大 分）
10		江 原 栄	漁・2	168	60	宇 部 高（山 口）
11		吉 本 幸 臣	漁・2	165	60	壱 岐 高（長 崎）
12		黒 瀬 尚 義	漁・2	165	60	修 猷 館 高（福 岡）
補	○	望 月 昭 宏	製・3	163	58	下 関 西 高（山 口）
〃		園 田 喬 一	漁・3	163	55	済 々 黌 高（熊 本）
〃		竹 内 誠 一	漁・2	175	65	戸 畑 高（福 岡）
〃		池 添 俊 一	漁・2	172	70	出 水 高（鹿児島）
〃		田 中 優 吉	漁・2	165	60	加 世 田 高（鹿児島）
〃		川 島 和 夫	漁・2	172	61	宇 部 高（山 口）

神 戸 商 船 大 学

		氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校 （県）
顧 問		杉 浦 昭 典				
艇指揮	◎	大 西 典 一	N・4	173	67	加古川東高（兵 庫）
艇 長		剣 持 勝 彦	E・3	165	58	倉 敷 青 陵 高（岡 山）
1		安 田 勝 彦	N・4	165	57	富 田 林 高（大 阪）
2		増 田 明 彦	N・2	170	65	尼 崎 北 高（兵 庫）
3		野 田 英 夫	E・2	170	68	芦 屋 高（兵 庫）
4		三 坂 正 信	N・2	176	67	竜 野 高（兵 庫）
5		永 石 大 機	N・2	170	73	人 吉 高（熊 本）
6		加 治 国 宏	E・3	175	65	田 川 高（福 岡）
7		矢田部 尚 三	E・4	177	75	神 戸 高（兵 庫）
8		田 中 正 人	N・3	164	63	天 王 寺 高（大 阪）
9		船 橋 俊 一	N・2	181	75	文 京 高（東 京）
10		寺 田 栄 一	E・4	173	68	岸 和 田 高（大 阪）
11		増 永 九二六	N・2	178	70	尼 崎 高（兵 庫）
12		中 村 浩 司	N・2	165	62	長 崎 東 高（長 崎）
補	○	東 藤 泰 照	N・3	169	60	札 幌 北 高（北海道）

出漕クルー

水産大学校

		氏名	科・学年	身長	体重	出身高校（県）
顧問		橋本市雄				
艇指揮		阪本善朋	G・3	172	63	高津高（大阪）
艇長	◎	三浦昭人	G・4	165	61	国学院高（東京）
1		磨井敬嗣	K・2	168	66	門司高（福岡）
2		秋山征郎	K・3	172	68	筑紫ヶ丘高（福岡）
3		松浦和磨	K・3	167	70	邇摩高（島根）
4		計盛幸雄	G・2	172	65	富岡西高（徳島）
5		田中邦久	K・2	171	65	川本高（島根）
6		長谷川澄	G・3	173	68	高津高（大阪）
7		明星憲之助	K・3	167	66	長崎東高（長崎）
8		東芳次	G・3	176	69	明善高（福岡）
9		遠藤弘	G・2	169	67	新潟東工高（新潟）
10		杉原浩史	G・3	172	71	諫早高（長崎）
11		林田俊作	K・3	165	62	諫早高（長崎）
12		山村好彦	K・3	163	62	下関西高（山口）
補		船木弘和	Z・3	166	60	舟入高（広島）
〃		上田直志	S・2	165	62	宇部高（山口）
〃	○	品川元	G・3			田川高（福岡）

東京商船大学

		氏名	科・学年	身長	体重	出身高校（県）
顧問		中島保司				
艇指揮	◎	中川正三	航海4	164	57	浜田高（島根）
艇長		植田裕弥	機関4	160	55	熊谷高（埼玉）
1		島雄節彦	航海2	168	65	新宿高（東京）
2		小林彰	航海4	172	67	北園高（東京）
3		横地三千夫	航海2	167	71	酒田東高（山形）
4		城石裕一	機関4	172	65	福岡高（福岡）
5		阿部澄男	航海3	169	71	新居浜西高（愛媛）
6		荒井道志	航海2	169	67	上田高（長野）
7		戸石寛	機関3	178	72	勝山高（大阪）
8		長谷川雅男	航海3	173	75	春日部高（埼玉）
9		河原静雄	航海2	170	71	芦別高（北海道）
10		伊藤孝	航海2	171	70	酒田東高（山形）
11		渡部芳朋	機関3	166	66	八幡高（福岡）
12	○	柳生武志	機関4	166	62	一宮高（愛知）
補		鈴木正	機関4	172	67	浜松西高（静岡）
〃		菊地恭治	航海2	175	62	横浜南高（神奈川）
〃		本庄三郎	航海2	168	62	目黒高（東京）

出 漕 ク ル ー

東 京 水 産 大 学

		氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校 （県）
顧 問		宮 崎 芳 夫				
艇指揮		早 川 徹	漁・4	157	58	浜 松 北 高（静 岡）
艇 長		関 屋 建 三	製・3	160	57	小 倉 高（福 岡）
1		信 田 臣 一	製・3	171	64	銚 子 一 高（千 葉）
2		風 間 泰 教	漁・2	173	64	長 野 高（長 野）
3		山 本 淳 二	漁・3	173	63	伊 勢 高（三 重）
4	○	菅 原 彪	増・4	168	67	築 館 高（宮 城）
5	◎	田 中 勝 義	漁・4	179	73	桐 朋 高（東 京）
6		小 川 恒 治	増・3	171	67	舞 鶴 高（大 分）
7		瀬 戸 尚 一	漁・3	172	65	気 仙 沼 高（宮 城）
8		屋和田 孝	漁・3	175	70	釧 路 湖 陵 高（北海道）
9		水 野 敬 一	増・2	172	65	札 幌 南 高（北海道）
10		杉 崎 馨	漁・2	169	66	足 利 高（群 馬）
11		伊 東 芳 則	漁・3	160	58	長 生 高（千 葉）
12		山 川 邦 昭	漁・3	164	60	明 訓 高（新 潟）
補		尾 沢 律	製・2	164	59	大 月 高（長 野）
〃		増 田 忠 利	製・2	175	72	松 本 深 志 高（長 野）

長 崎 大 学

		氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校 （県）
顧 問		麻 生 幸 則				
艇指揮		川 崎 洋 二	漁業3	163	54	廷 岡 高（宮 崎）
艇 長		弥 山 和 彦	漁業3	170	57	玉 名 高（熊 本）
1		小 県 治	漁業3	164	60	丸 亀 高（香 川）
2	○	寺 沢 大 佐	漁業3	160	58	阪 南 高（大 阪）
3		石 川 修 市	漁業3	160	58	串 木 野 高（鹿児島）
4		村 田 八 紘	漁業3	165	58	津 高（三 重）
5	◎	田 村 秀 男	漁業3	171	64	長 田 高（兵 庫）
6		古 賀 秀 丸	漁業3	168	58	西 田 川 高（福 岡）
7		高 木 保 昌	漁業3	177	68	長 崎 西 高（長 崎）
8		首 藤 浩 三	製造3	177	68	大 分 舞 鶴 高（大 分）
9		藤 吉 昌 俊	製造3	173	64	伝 習 館 高（福 岡）
10		広 島 敏 光	漁業3	168	60	島 原 高（長 崎）
11		万 戸 克 成	漁業3	170	62	星 陵 高（兵 庫）
12		川 田 修	漁業3	167	60	高 松 第 1 高（香 川）
補		高 尾 実	漁業3	164	55	大 村 高（長 崎）
〃		松 本 伸 男	漁業3	160	56	山 田 高（福 岡）
〃		亀 山 武	漁業2	171	65	大 分 舞 鶴 高（大 分）

出 漕 ク ル ー

日 本 大 学

		氏 名	科・学年	身長	体重	出身高校 (県)
顧 問		添田秀男				
艇指揮		赤坂雄彦	漁・4	162	56	帝京高(東京)
艇 長	○	上田泰昭	増・4	171	63	日大豊山高(東京)
1		長峰俊治	増・4	172	64	日大三高(東京)
2		今村竜七	増・3	162	56	焼津水産高(静岡)
3		岡本昌夫	増・4	171	61	相洋高(神奈川)
4		西角守	製・2	174	71	明大中野高(東京)
5		岡田文一	漁・2	171	61	安房水産高(千葉)
6		光田三男	増・4	161	64	水海道高(茨木)
7	◎	兼子昭夫	増・4	161	65	焼津水産高(静岡)
8		望月徳郎	増・3	165	65	江戸川高(東京)
9		佐々木正雄	増・4	165	71	城北高(東京)
10		蒔田道雄	増・2	173	65	焼津水産高(静岡)
11		野本誠一	製・4	171	63	日大鶴ヶ丘高(東京)
12		今井康一	増・3	170	60	成城高(東京)
補		橋ヶ迫覚	増・2	165	63	日大鶴ヶ丘高(東京)
〃		篤達彦	漁・2	160	55	日大鶴ヶ丘高(東京)
〃		原博隆	漁・2	168	61	日大一高(東京)
〃		小島哲男	製・2	173	62	日大豊山高(東京)

三 重 県 立 大 学

		氏 名	科・学年	身長	体重	出身高校 (県)
顧 問		細川鉄雄				
艇指揮		二松信宏	2	169	57	浜松北高(静岡)
艇 長		山本敏昭	増・3	170	57	桑名高(三重)
1		梅村庄三	2	168	54	四日市高(三重)
2		杉永厚	2	175	55	上野高(三重)
3		堀口栄	2	166	70	雪谷高(東京)
4		大藤直行	漁・3	165	70	山本高(大阪)
5	○	渡辺修	漁・3	170	64	札幌北高(北海道)
6		近藤不二夫	2	172	64	中村高(愛知)
7		野田明	2	176	70	伊勢高(三重)
8		山中博史	2	176	73	熊本高(熊本)
9		伊藤光彦	漁・3	179	77	桑名高(三重)
10		小池忠義	漁・3	171	70	富田林高(大阪)
11		中西満	増・3	172	66	東淀川高(大阪)
12		小原学	増・3	170	64	泉尾高(大阪)
補		加藤大輔	2	164	58	昭和高(愛知)

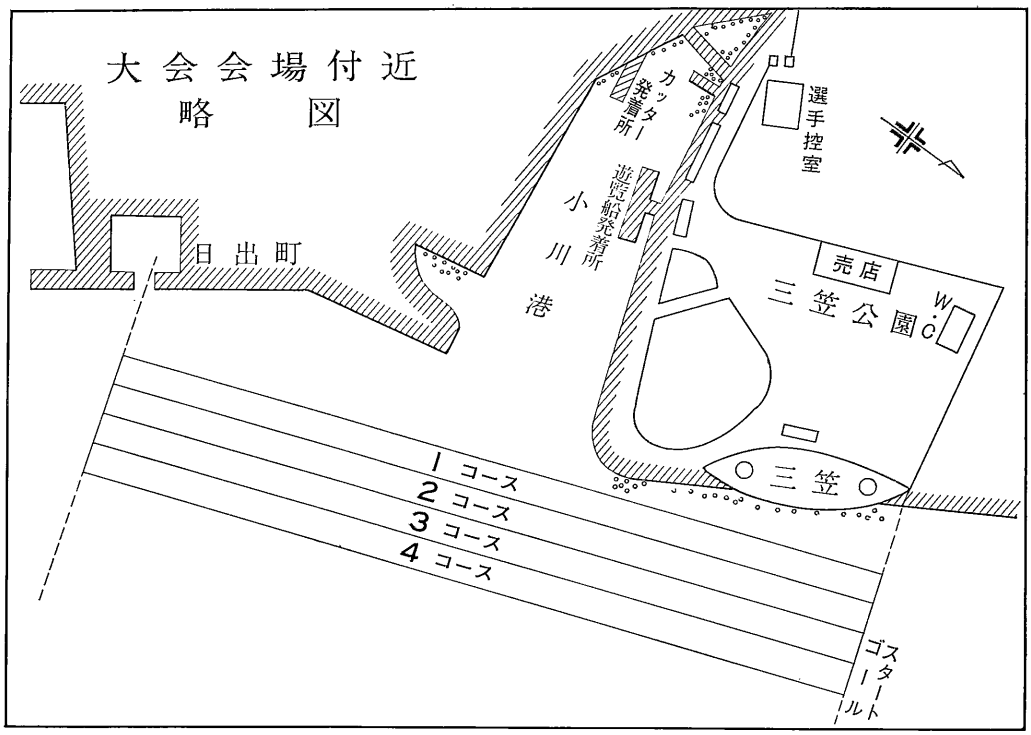
出 漕 ク ル ー

防 衛 大 学 校

		氏 名	科・学年	身長	体重	出身高校 (県)
顧問		山谷稚宏				
艇指揮	◎	亀井隆明	陸・化4	172	63	神奈川商工高(神奈川)
艇長		沢田明	海・航3	168	59	膳所高(滋賀)
1		北出弘之	陸・機4	169	66	横須賀学院(神奈川)
2		福崎幸則	海・基II3	166	65	玉竜高(鹿児島)
3		中川光康	海・基II3	170	66	ラ・サール高(鹿児島)
4		新海博夫	海・基I3	170	64	韮崎高(山梨)
5		山田道雄	海・物4	170	65	松山南高(愛媛)
6		金子弘	海・機4	169	66	宇部高(山口)
7		長浜英弘	陸・機4	170	63	長崎東高(長崎)
8		古沢稔	海・応物4	169	66	仙台二高(東京)
9		田中久喜	陸・電3	171	65	鳥取西高(鳥取)
10		中島隆夫	陸・電3	168	65	高崎高(茨木)
11		大田豊	海・物3	169	64	呉三津田高(広島)
12		中村哲示	陸・機4	168	63	修猷館高(福岡)
補		福谷薫	海・基I3	169	62	三次高(広島)
〃		藤沢勝治	陸・物3	170	61	竜野高(兵庫)
〃		阿部洋継	海・2	169	65	唐津東高(佐賀)
〃		川村旭	空・2	168	66	延岡高(宮崎)
	○	山田哲	海・物4	169	65	

成 績 一 覧

第1回	① 東京水産大学	② 東京商船大学	③ 神戸商船大学 (東京)
第2回	① 東京水産大学	② 水産大学校	③ 東京商船大学 (神戸)
第3回	① 水産大学校	② 海上保安大学校	③ 東京水産大学 (呉)
第4回	① 神戸商船大学	② 水産大学校	③ 海上保安大学校 (横須賀)
第5回	① 東京水産大学	② 水産大学校	③ 三重県立大学 (神戸)
第6回	① 東京商船大学	② 防衛大学校	③ 水産大学校 (館山)
第7回	① 東京水産大学	② 海上保安大学校	③ 神戸商船大学 (呉)
第8回	① 神戸商船大学	② 海上保安大学校	③ 東京商船大学 (館山)
第9回	① 神戸商船大学	② 防衛大学校	③ 水産大学校 (神戸)
第10回	①	②	③ (横須賀)



レースの手引

本大会に使用される艇は長さ9米12人漕のカッターである。救命艇として使用されるものであるが一般のそれは艦艇同型であるのに対し、艇を切落して外観は普通の舟艇と変わりない。外板鎧張の木製でオール12本（各々長さ約4米40握りの直径8.2糎、重さ10乃至15瓲である）マスト、セール等の艤装品を備え帆走も可能である。漕手はクルーと呼ばれ艇尾より船首に向って舷右側の者が1番、同じく左側の者が2番、以下交互に 3、4～11、12 番と続き、1、2 番を Bowmen、11、12番を Strokemen（整調）と称して櫓漕のピッチを加減する任務を持つ。艇尾で舵を握るのが艇長で、指揮号令を行っているのが艇指揮である。艇指揮は艇の全ての指揮を行い船長に相当する。

レース距離は折返し2000米の直線コースで行う。各艇の艇首が一直線に並んだ時、号砲の信号を以ってスタートし、スタートラインより1000米の所に設置された各コース毎の回頭旗を、艇をこれに接触させずに左回り（反時計回り）に回頭して帰ってくる。即ちスタートラインがそのままゴールラインで、ゴールは艇首がゴールラインに達した時とする。予選は各グループ4チームづつで分けて行う。各グループの優勝チーム及び2位となったチームが敗者復活戦を行つて1位となつた計4チームによつて最後に優勝戦が行われるのである。レースはいずれも時間的ずれによる海況の変化の影響等のために、タイムレースでなく着順位である。ピッチ（1分間に漕ぐ回数）は大体30前後であるが各チームとも漕法の研究を重ねているので必ずしも一定ではなくそれぞれ特色のある漕法によるピッチを持つている。レース所要時間は10分余である。しかし、救命艇という性質上、いかなる荒海でもレースは行われ、その様な場合には30分にも及ぶ。カッターレースは10分余の間一瞬といえども息を抜くことを許されず、しかもクルー全員の呼吸が完全に一致しなければならない。レースの見所は、ピッチをいくらに定めるか、スタートダッシュ、回頭ラストスパートの巧拙、風浪、海潮流の対策、利用の巧拙等たゆまぬ練習、シーマンシップを完全に身につけた者が初めて克服できる実技を兼ねた、最も豪快な海のスポーツである。

審　判　規　則

1　使用艇、オール及びコースはレースの都度抽選により決定する。

2　スタート

1 各艇は指定の時刻、コース順に従い、スタートラインに整列する。

2 5分前をマイクにより通達スタートブイにつく。ブイにつき用意が完了したら艇長は陸上の審判員に手を挙げて合図する

3 スタート用意：号笛短声連続、手旗2原画、号笛長一声手旗頭上より一回転する

4 スタート：頭上の手旗を垂直に振下すと同時に号砲を打つ。

3　審判長、審判員がスタートを不完全と認めたときは直ちにレースを中止せしめ、スタートラインに呼び返す。
諸信号、審判艇コース横断。

4　スタートにおける号令前の飛び出し及び艇の事故によるスタートの遅速度は2回で失格である。

5　回頭は左回頭とする。回頭は指定の回頭旗を回頭するものとし他の回頭旗を回頭した場合、及び回頭旗に艇またはオールの一部でも接触した場合は失格である。

6　ゴール：艇首が規定のゴールラインに入った順序をもって順位とし、順序は審判員が判定する。

7　同着の場合は追込艇の勝とする。

8　ゴールイン時のスタートブイタッチは失格としない。

9　各艇は自己のコースを航行しもしこれを誤って他の艇に接触その他不正行為があったと審判員の認めたときは失格とする

10　レース中のコースにおける障害、自艇の故障等は他艇の不正な接触を除く他各艇自らこれを忍ぶべきものとする。しかし審判長の判断によりこの限りでないときもある。

11　レースに関する異議申立等はすみやかに艇指揮がこれを行い、審判長が裁決する

12　オールは予備2本を積み自由に使用して良い。

13　補欠は2名以内自由に交替できる。

14　オールは流したままゴールインしてよい

M E M O

天候　　風向　　風速　　波浪

時　刻	種　目	コース	校　名	艇	着順	タ　イ　ム
09.00	開　会　式					
10.15	予選第1レース	1	神航大	41	3	10－18.1
		2	三重大	01	1	10－09.7
		3	海技大	11	4	10－51.9
		4	水産校	12	2	10－13.6
10.40	予選第2レース	1	鹿大	41	4	10－25.2
		2	東航大	01	3	10－22.2
		3	防大	12	2	10－03.5
		4	海保大	11	1	9－50.4
11.20	予選第3レース	1	東水大	11	2	10－28.8
		2	長大	01	3	10－51.1
		3	日大	12	1	10－26.3
11.40～13.00	昼　食、　休　憩					
13.30	敗者復活レース	1	神航大	11	2	11－25.5
		2	水産校	01	3	11－30.6
		3	防大	12	1	11－10.1
		4	東水大	41	4	12－18.0
14.10	順位決定レース	1	長大	12	3	11－51.4
		2	東航大	41	1	11－21.5
		3	海技大	01	4	12－03.3
		4	鹿大	11	2	11－24.2
15.00	決勝レース	1	海保大	11	1	10－39.3
		2	日大	41	4	11－11.2
		3	防大	12	2	10－45.0
		4	三重大	01	3	10－55.3
15.45	閉　会　式					

印　刷　全　般

三和印刷株式会社

代表取締役社長　鎌　倉　有　宏

東京都中央区日本橋室町２－１

ＴＥＬ（241）１３５１（代表）